**１．今井芳枝,雄西智恵美,板東孝枝(2016)「納得の概念分析－国内文献レビュー－」『日本看護研究学会雑誌』39.2,73-85.**

「納得」の定義を決定するにあたり参考とした

また、納得の帰結（納得した人に生じる事象）について参考とした

「納得」は「ある事象に対して，自分のもつ価値や自分への利益を明確にすることで理解を深め，認知的にも感情的にも受容した状態であり，主体的かつ他者との信頼関係のなかで生み出される流動的な状態」と定義している

**２．岡登洋平,加藤佳司,山本幹雄,板橋 秀一(1999)「韻律情報を用いた相槌の挿入」『情報処理学会論文誌』40.2,469-478**

相槌における韻律情報の特徴を発話の基本周波数や発話長のほか、発話のタイミングから見出していた

**３．渡邉綾(2018)「日本在住外国人の医療体験に関するインタビュー:言語・非言語資源を用いた共感的反応の協働構築」『言語文化共同研究プロジェクト』2017,23-31**

共感的反応の分析方法について参考とした

**４．登張真稲(2014)「共感の神経イメージング研究から分かること」『発達心理学研究』 25.4,412-421**

「共感」の定義を考察するにあたり参考とした

共感の要素として「他者の感情と一致する感情を感じること」「他者の感情や心的状態が分かること」「他者に対する気遣い」が存在する

**５．石澤亜耶乃,島田英昭(2014)「ワーキングメモリの負荷が共感的反応に及ぼす影響－二重過程理論に基づく検討－」『認知科学』21.2,245-253**

共感的反応尺度について参考とした

**６．藤木大介,若杉佳彦,楞野祥子,岩本理沙,島田英昭(2017)「作動記憶負荷が物語への共感的反応に及ぼす影響」『心理学研究』88.4,390-395**

共感的反応尺度について参考とした